

## 平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月2日  
上場取引所 大

上場会社名 フィールズ株式会社  
 コード番号 2767 URL <http://www.fields.biz/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大屋 高志  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション室長 (氏名) 畑中 英昭  
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日 配当支払開始予定日 平成23年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

TEL 03-5784-2111

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	33,352	△22.5	1,582	△82.8	1,713	△82.0	2,428	△55.3
23年3月期第2四半期	43,012	100.6	9,182	70.5	9,503	88.1	5,428	148.8

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 2,496百万円 (△52.6%) 23年3月期第2四半期 5,268百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	7,313.43	—
23年3月期第2四半期	16,344.76	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	63,102	48,685	76.8
23年3月期	78,971	47,021	59.2

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 48,450百万円 23年3月期 46,779百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	2,500.00	—	2,500.00	5,000.00
24年3月期	—	2,500.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	2,500.00	5,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,000	△3.5	14,000	6.6	14,000	2.3	8,000	6.4	24,088.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	347,000 株	23年3月期	347,000 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	14,885 株	23年3月期	14,885 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	332,115 株	23年3月期2Q	332,115 株
----------	-----------	----------	-----------

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.5「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・当社は、平成23年11月4日(金)に機関投資家・アナリスト向けに説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(その他)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

#### ① 当第2四半期連結累計期間（4月－9月）の概況

売上高は33,352百万円（前年同期比22.5%減）、営業利益1,582百万円（同82.8%減）、経常利益1,713百万円（同82.0%減）となりました。四半期純利益については、子会社の解散・清算に伴い繰延税金資産を計上したため法人税等が減少し、2,428百万円（同55.3%減）となりました。

その主因は以下の通りです。

当期のパチンコ・パチスロ関連事業は、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響による電子部品の不足などを勘案し、下半期にパチンコ・パチスロ遊技機とも複数の大型タイトル投入を予定するなど、下半期重視の販売スケジュールを計画しています。この計画のもと、当第2四半期連結累計期間は、パチンコ遊技機1機種、パチスロ遊技機2機種を販売しました。

その他のエンタテインメント事業は、一部モバイル関連企業において新たな商品・サービス展開への投資が発生しました。

各セグメントの状況は以下の通りです。

#### ② 当第2四半期連結累計期間のセグメント分析

##### [ P S ・ フィールド ]

当第2四半期（7月－9月）のパチスロ市場は、当第1四半期に引き続き増台を堅持しています。平成23年9月末現在のパチスロ遊技機の全国設置台数は、前年同期比7.5%増の約144万台\*となり、パチンコ遊技機との合算台数でも同0.4%増の約454万台\*と市場規模は微増で推移しています。

一方、東日本大震災の影響から、パチンコ・パチスロ遊技機に必要な半導体など電子部品の調達について懸念が続いていましたが、当第2四半期に入り、サプライチェーン（供給網）が復旧し、メーカー各社も供給量の回復に向けて体制を強化しています。

今夏は、震災の影響に伴う電力不足への不安から、主に関東・東北地域の1都15県・約5,000軒のパチンコホールが平日・月2～3日の自主的な輪番休業を7月から9月にかけて3カ月間実施しました。営業日数の減少から当初は各店舗の売上減が心配されましたが、店休日が平日だったことと、営業しているホールへの来店増などもあり、特に影響を受けることなく推移しました。

なお、震災発生後、新台供給力がやや細るなかでもパチンコホールの集客力が維持・向上された点については、震災を契機にパチンコホールに本来的に備わっている地域コミュニティ機能が再評価されたことに加え、手軽に楽しめる大衆娯楽としてパチンコ・パチスロが日本の社会に根づいていることの表れとみています。

こうした状況のもと当社は、変化する市場ニーズはもとより、広くエンタテインメントの観点からパチンコ・パチスロビジネスをとらえ、余暇市場におけるパチンコ・パチスロ市場の競争力向上に軸足を置いた取り組みに力を注いできました。当期においても、エンタテインメント性に優れた商品の企画・開発・販売に注力し、市場の活性化に向けた取り組みを推進しています。

当第2四半期連結累計期間のパチスロ遊技機販売は、「SAMURAI 7」「旋風の用心棒～胡蝶の記憶～」2機種を販売したほか、前年度第4四半期に販売を開始した「モバスロ エヴァンゲリオン～真実の翼～」の当期計上がありました。一方、パチンコ遊技機販売では、大物アーティストをキャラクターに起用した「CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 -序章-」1機種を販売し、7万台を超える販売実績をあげました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のパチスロ遊技機販売台数は61,990台（前年同期比4,518台減）、パチンコ遊技機販売台数は89,264台（同137,356台減）となりました。この結果、P S ・ フィールドの売上高は29,568百万円（同23.2%減）、営業利益は1,711百万円（同81.2%減）となりました。

\*全国設置台数は当社調べによるものです。

<当第2四半期連結累計期間の販売タイトル一覧>

パチンコ遊技機販売タイトル	発売月	
CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 -序章-	平成23年 7月	(株ビスティ製)
パチンコ遊技機 総計上台数合計	89,264 台	

パチスロ遊技機販売タイトル	発売月	
[前期継続販売] モバスロ エヴァンゲリオン～真実の翼～	平成23年 3月	(株ビスティ製)
SAMURAI 7	平成23年 5月	(株ビスティ製)
旋風の用心棒～胡蝶の記憶～	平成23年 8月	(株ロデオ製)
パチスロ遊技機 総計上台数合計	61,990 台	

(注) 計上台数には、上記タイトル以外の代行販売による販売台数を含んでいます。

[ モバイル・フィールド ]

国内のインターネット利用環境は、通信速度の高速化や通信アクセス網の整備を背景に、モバイル、PCともに発展を続けています。特にモバイルでは、スマートフォンやタブレット型端末の普及が本格化し、ゲーム、電子書籍といったエンタテインメント系コンテンツに一層の需要の高まりがみられます。

こうした市場環境のなか、当社は有料会員数の拡大を目指し、強みであるパチンコ・パチスロ関連コンテンツを活用したモバイルを含むオンラインサービスの拡充に加え、その他領域でも保有コンテンツを活かした新サービスの拡充に努めています。

(株)フューチャースコープおよびアイピー・ブロス(株)は、モバイルを含むオンラインサービス分野において、当初計画の実績をあげていないサービスが一部あるものの、パチンコ・パチスロ関連コンテンツを活用したサービスへの投資を行い、有料会員数の拡大に向けた諸施策を積極的に推進しました。パチンコ・パチスロ関連以外のコンテンツを活用したサービスでは、当社との関連事業を含めグループのコンテンツ資産を活用した研究・開発および投資を進め、オンラインサービス分野の収益性を高めるべく積極的な取り組みを推進しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のモバイル・フィールドの売上高は1,149百万円（前年同期比8.5%増）、営業利益は62百万円（同68.8%減）となりました。

[ スポーツエンタテインメント・フィールド ]

当第2四半期連結累計期間は、スポーツ関連事業の経営改善を実施しました。

スポーツ分野のジャパン・スポーツ・マーケティング(株)は、平成23年8月23日付ニュースリリース「当社と子会社間での簡易吸収分割、及び子会社の特別清算に関するお知らせ」の通り、抜本的な事業再編を実施しました。

同社のフィットネスクラブ事業は、当社リソースを活用して今後大きな成長が見込まれることや、グループ事業とのシナジー効果が高いことを踏まえ、会社分割（簡易吸収分割）したうえで、当社が承継しました。その他の事業は、各事業を取り巻く市場環境が著しく変化していることから収益機会の創出を図ることは困難と判断し、同社の解散と同時に撤退することとしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のスポーツエンタテインメント・フィールドの売上高は1,031百万円（前年同期比4.7%減）、営業損失は34百万円（前年同期は営業損失140百万円）となりました。

[ その他・フィールド ]

映像関連の(株)円谷プロダクションでは、当社グループ企業となって約1年半が経過するなかで明らかになった経営課題に対する検討を重ね、将来計画の策定に着手しました。同社は、ウルトラマンシリーズなど従来から保有するIP（知的財産）の再活性化だけでなく、新しいIPの開発などを通じて収益性を高め、ブランド価値の向上を図るための諸施策を推進しています。

(株)デジタル・フロンティアは、ゲームおよびパチンコ・パチスロ遊技機向けコンピュータ・グラフィックス(CG)制作に加え、平成23年9月に公開された映画「鉄拳 ブラッド・ベンジェンス 3D」のCG制作全般を担当するなど、映像制作事業を拡大しました。同社は、映画・ゲームなどの長編CG制作の依頼増加に応える制作ラインの拡充が課題であるため、国内のみならず海外で制作ライン確保を行い、体制強化を図っています。

ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)は、3D映像関連技術を活かした雑誌・デジタル版企画を進める一方、設立時より企画・プロデュースしている大型プロジェクトである劇場アニメーション「ベルセルク 黄金時代篇 I 覇王の卵」(平成24年2月公開予定)で着実な実績をあげるべく、多様なメディアとのタイアップ企画を推進しました。

コンテンツ開発関連では、(株)小学館クリエイティブとの共同出資で設立した出版会社(株)ヒーローズが未来形コミック「月刊ヒーローズ」の平成23年11月1日創刊に向けた準備を進め、優良IPの開発・創造に必要な基盤強化に注力しました。今後、同誌のコンテンツ充実を図るとともに、パチンコ・パチスロ関連を含めた多様な分野でのクロスメディア展開を積極的に推進していきます。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のその他・フィールドの売上高は2,299百万円(前年同期比12.1%減)、営業損失は139百万円(前年同期は営業利益58百万円)となりました。

(注) 各セグメントの売上高には、内部売上高または振替高を含んでいます。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### (資産)

流動資産は、32,250百万円と前連結会計年度末比18,800百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、10,596百万円と前連結会計年度末比506百万円の増加となりました。

無形固定資産は4,857百万円と前連結会計年度末比212百万円の減少となりました。

投資その他の資産は、15,397百万円と前連結会計年度末比2,636百万円の増加となりました。これは主に繰延税金資産の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は63,102百万円と前連結会計年度末比15,869百万円の減少となりました。

### (負債)

流動負債は、10,205百万円と前連結会計年度末比17,381百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少及び未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,211百万円と前連結会計年度末比151百万円の減少となりました。これは主に社債の償還によるものです。

以上の結果、負債の部は14,417百万円と前連結会計年度末比17,532百万円の減少となりました。

### (純資産)

純資産の部は、48,685百万円と前連結会計年度末比1,663百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。

### (キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ2,153百万円増加し、17,785百万円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、5,332百万円(前年同期は11,199百万円の収入)となりました。これは主に売上債権の減少24,829百万円、仕入債務の減少14,678百万円、法人税等の支払4,142百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,932百万円(前年同期は2,738百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出816百万円、無形固定資産の取得による支出531百万円、投資有価証券の取得による支出400百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,241百万円(前年同期は2,580百万円の支出)となりました。これは主に配当金の支払829百万円、社債の償還による支出370百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

	平成24年3月期 見通し	平成23年3月期 実績	前年同期比
売上高	100,000百万円	103,593百万円	3.5%減
営業利益	14,000百万円	13,136百万円	6.6%増
経常利益	14,000百万円	13,684百万円	2.3%増
当期純利益	8,000百万円	7,520百万円	6.4%増

当期は、前述の通り、東日本大震災の影響による電子部品の不足などを勘案した下半期重視の遊技機販売スケジュールを計画しています。下半期は、市場の盛り上がりさらなる期待が高まりつつある中で、当社はパチンコ・パチスロ遊技機ともに市場の活性化を牽引できる複数の大型タイトル投入を予定しており、積極的な受注活動に努めていきます。

従いまして、通期連結業績見通しについては、平成23年5月12日発表の「平成23年3月期 決算短信」の通り変更ありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,873	18,065
受取手形及び売掛金	27,948	4,947
商品及び製品	300	156
仕掛品	826	2,114
原材料及び貯蔵品	231	230
その他	6,071	6,870
貸倒引当金	△200	△134
流動資産合計	51,051	32,250
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,324	6,642
その他	3,765	3,953
有形固定資産合計	10,089	10,596
無形固定資産		
のれん	2,801	2,645
その他	2,268	2,211
無形固定資産合計	5,070	4,857
投資その他の資産		
投資有価証券	8,466	9,026
その他	4,769	6,867
貸倒引当金	△475	△496
投資その他の資産合計	12,760	15,397
固定資産合計	27,920	30,851
資産合計	78,971	63,102
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,939	3,179
1年内償還予定の社債	740	670
短期借入金	85	85
1年内返済予定の長期借入金	44	14
未払法人税等	4,217	942
賞与引当金	312	60
役員賞与引当金	220	120
事務所移転損失引当金	—	41
返品調整引当金	—	1
その他	4,028	5,090
流動負債合計	27,587	10,205
固定負債		
社債	900	600
長期借入金	65	58
退職給付引当金	339	375
その他	3,058	3,177
固定負債合計	4,362	4,211
負債合計	31,949	14,417



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	33,443	35,042
自己株式	△1,785	△1,785
株主資本合計	47,601	49,199
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△822	△748
為替換算調整勘定	0	△1
その他の包括利益累計額合計	△821	△749
少数株主持分	242	235
純資産合計	47,021	48,685
負債純資産合計	78,971	63,102

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	43,012	33,352
売上原価	24,020	21,368
売上総利益	18,991	11,983
販売費及び一般管理費	9,809	10,401
営業利益	9,182	1,582
営業外収益		
受取利息	6	3
受取配当金	82	85
持分法による投資利益	181	40
投資有価証券運用益	—	99
その他	198	127
営業外収益合計	469	356
営業外費用		
支払利息	12	6
投資有価証券運用損	72	11
出資金償却	17	95
災害支援費用	—	82
その他	46	27
営業外費用合計	148	224
経常利益	9,503	1,713
特別利益		
固定資産売却益	1	0
関係会社株式売却益	126	7
貸倒引当金戻入額	229	—
その他	48	—
特別利益合計	406	8
特別損失		
固定資産除却損	4	9
減損損失	3	22
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	142	—
事務所移転損失引当金繰入額	—	41
その他	32	22
特別損失合計	182	96
税金等調整前四半期純利益	9,727	1,625
法人税等	4,302	△800
少数株主損益調整前四半期純利益	5,424	2,425
少数株主損失(△)	△3	△3
四半期純利益	5,428	2,428

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,424	2,425
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△156	73
為替換算調整勘定	0	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	0	—
その他の包括利益合計	△155	71
四半期包括利益	5,268	2,496
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,272	2,500
少数株主に係る四半期包括利益	△3	△4

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	9,727	1,625
減価償却費	903	892
減損損失	3	22
のれん償却額	177	156
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△251	△43
賞与引当金の増減額(△は減少)	△225	△252
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△15	△100
退職給付引当金の増減額(△は減少)	32	36
事務所移転損失引当金の増減額(△は減少)	△0	41
受取利息及び受取配当金	△89	△88
仕入割引	△86	△22
持分法による投資損益(△は益)	△181	△40
支払利息	12	6
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	142	—
売上債権の増減額(△は増加)	25,601	24,829
たな卸資産の増減額(△は増加)	29	△1,142
商品化権前渡金の増減額(△は増加)	△47	△663
仕入債務の増減額(△は減少)	△20,565	△14,678
未払消費税等の増減額(△は減少)	△4	△705
預り金の増減額(△は減少)	7	53
その他	△579	△566
小計	14,591	9,361
利息及び配当金の受取額	95	124
利息の支払額	△16	△9
法人税等の支払額	△3,471	△4,142
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,199	5,332
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△216	△816
有形固定資産の売却による収入	3	2
無形固定資産の取得による支出	△383	△531
投資有価証券の取得による支出	△366	△400
出資金の払込による支出	△51	△3
貸付けによる支出	△243	△52
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,649	—
関係会社株式の取得による支出	△115	△10
関係会社株式の売却による収入	200	7
その他	84	△128
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,738	△1,932

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,209	—
長期借入金の返済による支出	△30	△37
社債の償還による支出	△457	△370
配当金の支払額	△827	△829
その他	△56	△4
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△2,580</b>	<b>△1,241</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△5
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>5,875</b>	<b>2,153</b>
現金及び現金同等物の期首残高	15,906	15,632
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>21,782</b>	<b>17,785</b>

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	PS・ フィールド	モバイル・ フィールド	スポーツエン タテインメン ト・フィール ド	その他・ フィールド	計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高							
外部顧客に対する売上高	38,364	1,057	1,079	2,511	43,012	—	43,012
セグメント間の内部 売上高又は振替高	134	2	3	103	243	(243)	—
計	38,499	1,059	1,082	2,615	43,256	(243)	43,012
セグメント利益又は損失 (△)	9,109	199	△140	58	9,226	△44	9,182

(注) 1 セグメント利益の調整額△44百万円は、セグメント間取引の消去によるものです。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他・フィールド」において、連結子会社である株式会社円谷プロダクション及び株式会社デジタル・フロンティアの株式を取得しています。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては2,732百万円です。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	PS・ フィールド	モバイル・ フィールド	スポーツエン タテインメン ト・フィール ド	その他・ フィールド	計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高							
外部顧客に対する売上高	29,461	998	1,025	1,866	33,352	—	33,352
セグメント間の内部 売上高又は振替高	107	150	5	433	696	(696)	—
計	29,568	1,149	1,031	2,299	34,049	(696)	33,352
セグメント利益又は損失 (△)	1,711	62	△34	△139	1,600	△18	1,582

(注) 1 セグメント利益の調整額△18百万円は、セグメント間取引の消去によるものです。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。